

2018年3月期 第2四半期決算説明会

1. 第2四半期決算の概要(連結)
2. 通期の業績見通し
3. 当社の経営戦略

2017年11月9日

日本光電工業株式会社

証券コード : 6849

<http://www.nihonkohden.co.jp>

Fighting Disease with Electronics



NIHON KOHDEN

1 第2四半期決算の概要(連結)

1) 当第2四半期の決算概要

(単位:百万円、単位未満切捨て)

	前第2四半期 累計 (2016/9)	当第2四半期 累計(2017/9)		
		期初予想	実績	対前年同期 増減率(%)
売上高	74,463	78,000	76,648	2.9
国内売上高	55,876	-	56,241	0.7
海外売上高	18,586	-	20,407	9.8
営業利益	3,834	3,900	3,128	△ 18.4
経常利益	2,689	3,900	3,722	38.4
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,683	2,500	2,541	51.0

平均レート	(2016/9)	(2017/9)
1ドル	107.6円	111.3円
1ユーロ	119.9円	126.1円

為替影響除く: +7%

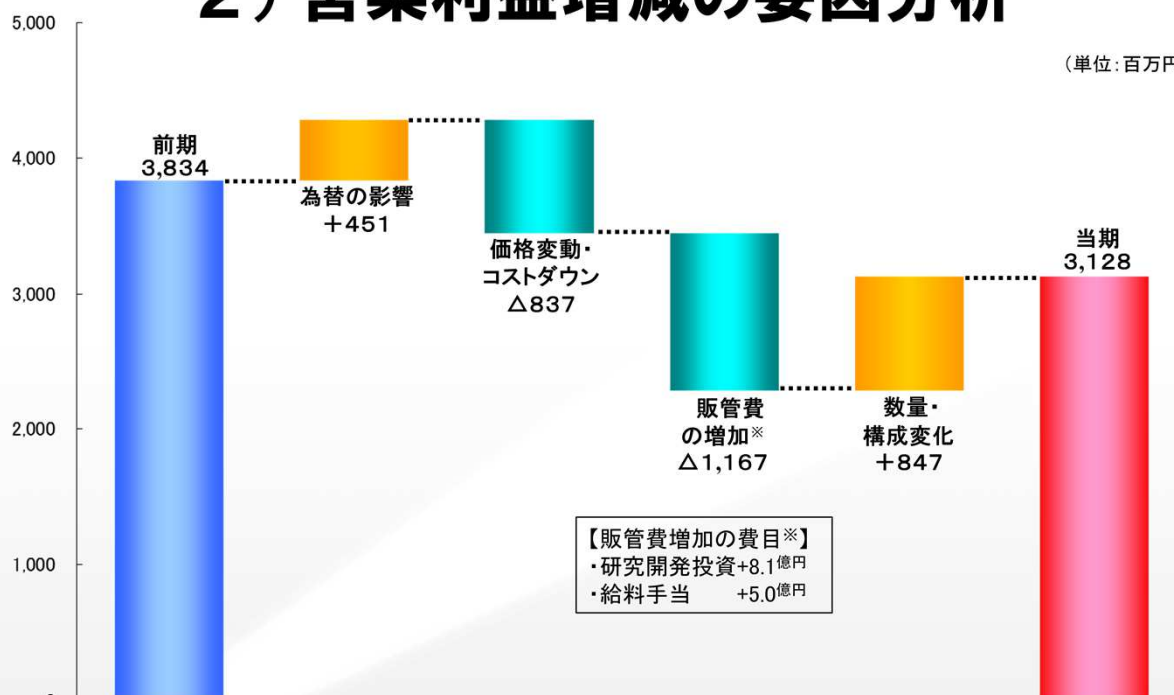
粗利率: 2016/9 48.1% → 2017/9 47.6%
販管費率: 43.0% → 43.5%

2016/9 2017/9
為替差損 1,510百万円 → 為替差益 257百万円

- 売上高は、2.9%増の766億円となりました。
- 国内売上高は、大学、官公立病院市場は前期を下回りましたが、診療所市場が好調に推移し0.7%増の562億円となりました。
- 海外売上高は、アジア州は前期を下回りましたが、米州、欧州が好調に推移し、9.8%増の204億円となりました。現地通貨ベースでは、7%の増加となっています。
- 期初予想に対しては、国内・海外ともに下回り、全体で14億円の未達となりました。
- 利益面では、国内における導入品の原価率の上昇に加え、海外での売上増加に伴う外注費の増加により、原価率が上昇しました。販管費も研究開発投資などにより増加したことから、営業利益は、18.4%減の31億円となりました。
- 経常利益は、為替差益の計上により、38.4%増の37億円、純利益は51%増の25億円となりました。

2) 営業利益増減の要因分析

(単位: 百万円)



※「販管費の増加」は為替の影響を除いた営業利益増減要因としての金額、
 「販管費増加の費目」は円建ての販売費及び一般管理費のうち主な増加金額を表しています。

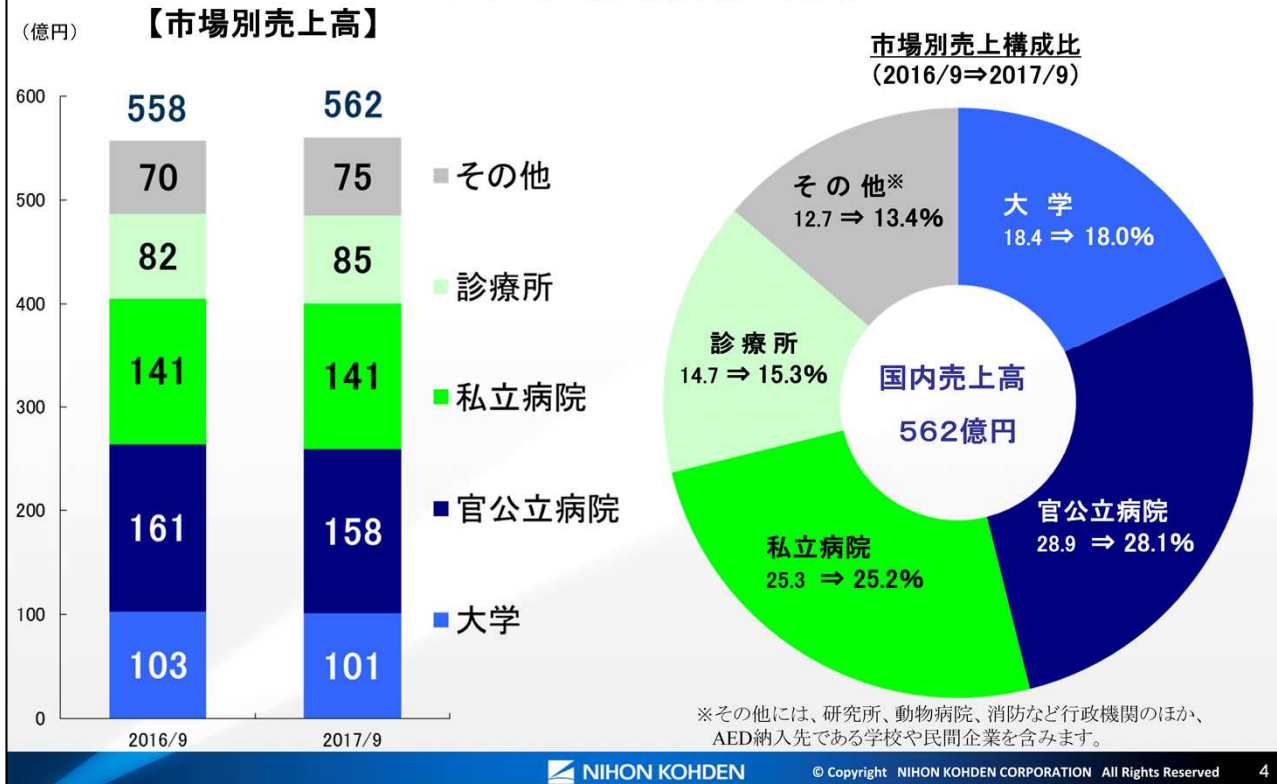
NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

3

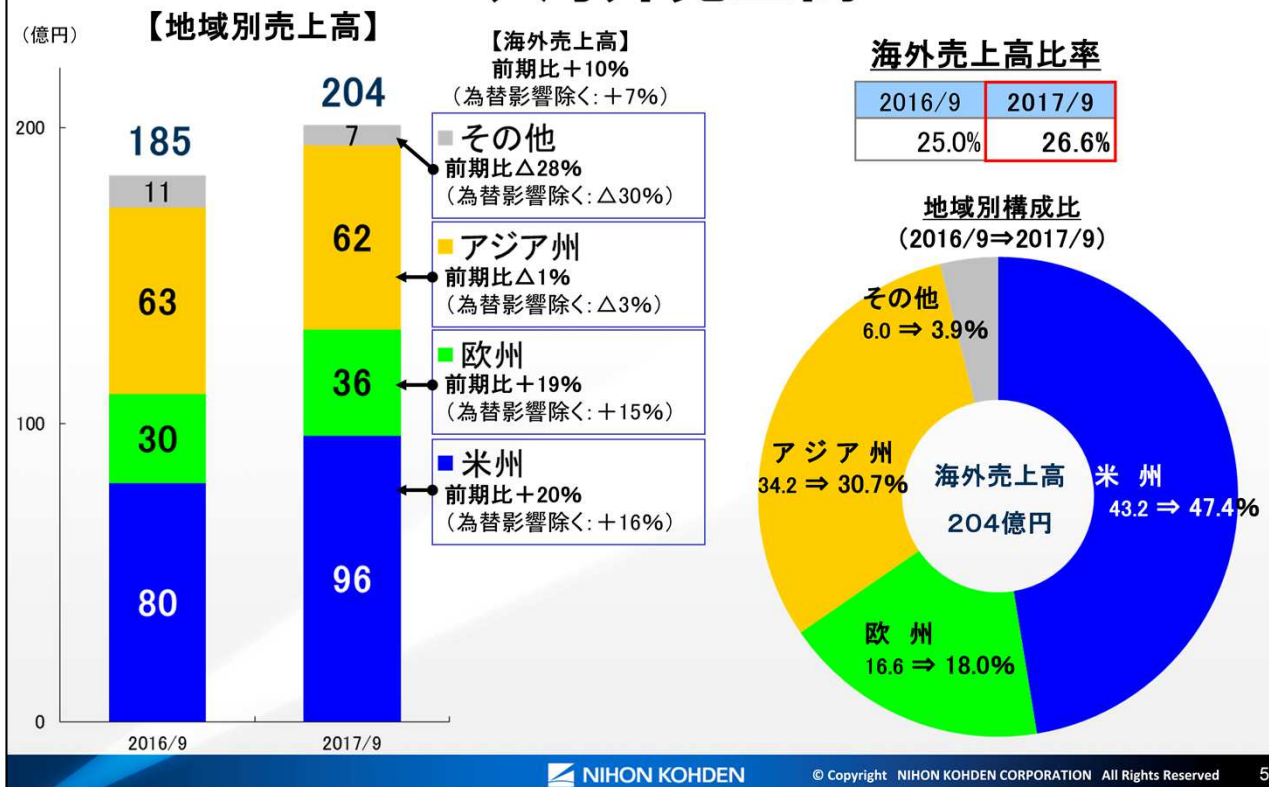
- 営業利益が、前期の38億円から31億円となった要因について、ご説明します。
- 為替の影響につきましては、ドル、ユーロに対し円安が進んだことから、4億円のプラス要因となりました。
- 価格変動・コストダウンにつきましては、コストダウンが売価の下落を吸収できず8億円のマイナス要因となりました。
- 販管費につきましては、研究開発費、人件費を中心に増加し、11億円のマイナス要因となりました。
- 数量・構成の変化につきましては、主に数量増加により、8億円のプラス要因となりました。

3) 国内売上高



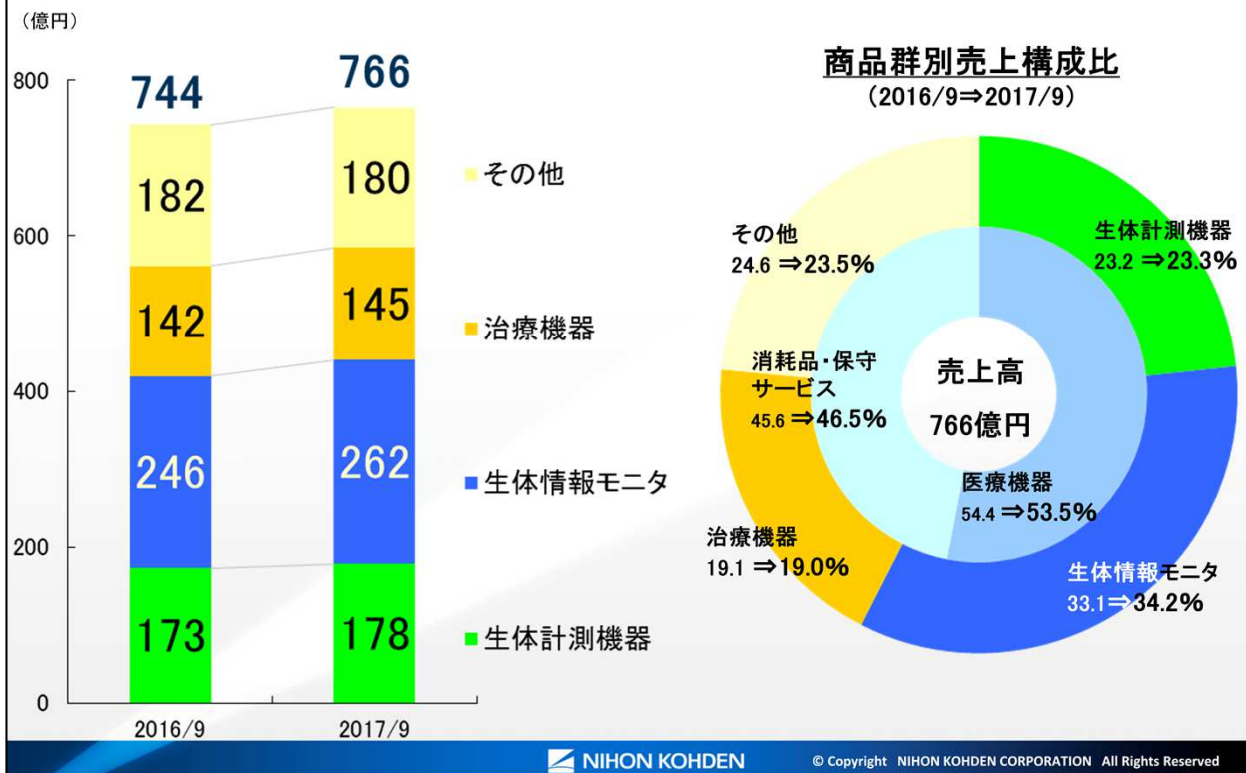
- 国内売上高は4億円増の562億円となりました。
- 2017年4月に支社支店制に移行し、急性期病院、中小病院、診療所といった、市場別の取り組みを強化するとともに、消耗品・保守サービスの拡大に注力した結果、売上を伸ばすことが出来ました。
- 市場別では、診療所市場が好調に推移し、私立病院市場は前期並みを維持しました。一方で、大学、官公立病院市場は、引き続き、厳しい経営環境にあることから、前期を下回りました。

4) 海外売上高



- 海外売上高は、19億円増の204億円となりました。
- 米州は、16億円増の96億円、現地通貨ベースでは、16%増加となりました。米国は、前期末に受注したモニタ商談の出荷もあり、大きく伸びました。中南米も、ブラジル、コロンビアが好調に推移しました。
- 欧州では、フランスが好調に推移し、トルコ、ロシアも回復したことから、6億円増の36億円となりました。現地通貨ベースでは、15%増加しています。
- アジア州は、1億円減の62億円、現地通貨ベースで3%減少となりました。中近東は販売代理店網の整備・拡充により、前期を上回りましたが、韓国、ベトナムが低調でした。中国も現地通貨ベースでは前期を上回りましたが、円高により、減収となりました。
- その他地域は、前期にエジプトで大口商談があった反動もあり、減収となりました。
- 海外売上高比率は26.6%となっています。

5) 商品群別売上高



- 商品群別の売上高の状況は、ご覧のとおりです。
- その他商品群は前期を下回りましたが、主力の生体情報モニタを中心に伸ばすことができました。
- 医療機器と消耗品・保守サービスの割合では、国内外での消耗品事業の強化を受け、消耗品・保守サービスの割合が46.5%へ増加しています。

5.1) 生体計測機器

(単位: 百万円)

	前第2四半期 累計(2016/9)	当第2四半期 累計(2017/9)	増減率(%)
脳神経系群	3,335	3,315	△ 0.6
心電計群	3,145	3,077	△ 2.1
心臓カテーテル検査装置群	6,101	6,552	7.4
その他(診断情報システム等)※	4,719	4,888	3.6
生体計測機器合計	17,302	17,833	3.1
うち国内売上高	13,536	14,264	5.4
うち海外売上高	3,765	3,568	△ 5.2

※その他には、診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。

脳神経系群は前期を下回るも、心電計群、心臓カテーテル検査装置群、診断情報システムが好調に推移

脳神経系群は堅調に推移するも、心電計群が前期を下回る



筋電図・誘発電位
検査装置 MEB-9400



心電計 ECG-2450



臨床用ポリグラフ RMC-5000



医療介護ネットワーク
システム LAV-1000

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

7

- 「生体計測機器」は、全体で3.1%増の178億円となりました。
- 国内では、脳神経系群は前期を下回りましたが、心電計群、心臓カテーテル検査装置群、診断情報システムが好調に推移し、5.4%増の142億円となりました。
- 海外では、脳神経系群は堅調に推移しましたが、心電計群が前期を下回り、5.2%減の35億円となりました。

5.2) 生体情報モニタ

(単位: 百万円)

	前第2四半期 累計(2016/9)	当第2四半期 累計(2017/9)	増減率(%)
生体情報モニタ合計	24,667	26,248	6.4
うち国内売上高	16,079	16,148	0.4
うち海外売上高	8,588	10,100	17.6

送信機、ベッドサイドモニタは前期を下回るも、臨床情報システム、センサ等の消耗品が増収

米州、欧州での売上が大幅に伸長。アジア州も堅調に推移



ベッドサイドモニタ
CSM-1901



バイタルサインテレメータ
GZ-140P



NEW!



送信機
ZS-640P



NEW!



SpO₂
プローブ



cap-ONE
バイトブロック



心電図
電極

消耗品関連

※日本光電独自の血圧測定アルゴリズム。血圧カフを締め付けすぎず、短時間で測定。

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8

- 「生体情報モニタ」は、全体で6.4%増の262億円となりました。
- 国内では、送信機、ベッドサイドモニタは前期好調だった反動もあり低調でしたが、臨床情報システム、消耗品が増加し、0.4%増の161億円となりました。
- 海外では、米州、欧州が大きく伸び、アジア州も堅調に推移したことから、17.6%増の101億円となりました。

5.3) 治療機器

	前第2四半期 累計(2016/9)	当第2四半期 累計(2017/9)	増減率(%)
医科向け除細動器	2,197	2,572	17.0
A E D	6,484	6,694	3.2
ペースメーカー・ICD	1,541	1,593	3.4
人工呼吸器	958	934	△ 2.6
その他の	3,051	2,752	△ 9.8
治療機器合計	14,233	14,546	2.2
うち国内売上高	10,275	10,143	△ 1.3
うち海外売上高	3,958	4,402	11.2
(参考)AED販売台数	41,200	38,900	△ 5.6
うち国内販売台数	21,800	20,000	△ 8.3

(単位:百万円)

← 国内・海外ともに好調に推移

← 国内・海外ともに販売台数は前期を下回るも、パッド、バッテリーなど消耗品が堅調に推移

← 【国内】ウォーミングシステムの仕入先の変更の影響もあり減収



除細動器
TEC-5600シリーズ



AED
AED-3100



心臓ペースメーカー
Zenex MRI



人工呼吸器
HAMILTON-C1



エアウェイスコブ
AWS-S200

10月2日
HOYAサービス
から事業譲受

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

9

- 「治療機器」は、全体で2.2%増の145億円となりました。
- 商品別では、医科向け除細動器は、国内外ともに好調に推移し、17%増の25億円となりました。
- AEDは、販売台数が全体で38,900台、売上は3.2%増の66億円となりました。国内外ともに、販売台数は前期を下回りましたが、消耗品が堅調に推移しました。
- 「その他」は、ウォーミングシステムの仕入先変更に伴い、減収となりました。
- 地域別では、国内は1.3%減の101億円、海外は11.2%増の44億円となりました。
- HOYAサービスからの事業譲受につきましては、10月2日に完了しています。

5.4) その他

(単位:百万円)

	前第2四半期 累計(2016/9)	当第2四半期 累計(2017/9)	増減率(%)
検体検査装置	5,277	5,033	△ 4.6
画像診断装置、 研究用機器他※	12,981	12,986	0.0
その他合計	18,258	18,019	△ 1.3
うち国内売上高	15,985	15,684	△ 1.9
うち海外売上高	2,273	2,335	2.7

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。

← 検体検査装置が前期を下回る

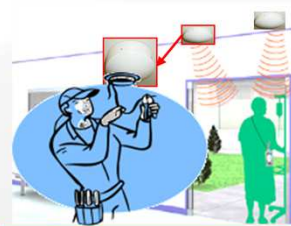
← 検体検査装置は前期を下回るも、サービス、現地仕入品が増収



全自動血球計数器
MEK-9100



臨床化学分析装置
CHM-4100



設置工事・保守サービス

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

10

- 「その他商品群」につきましては、全体で1.3%減の180億円となりました。
- 国内では、検体検査装置が前期を下回ったことから、1.9%減の156億円となりました。
- 海外は、アジア州で血球計数器が低調に推移したものの、サービスや仕入品が増加し、2.7%増の23億円となりました。

6) 財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2017/3	当第2四半期末 2017/9	増減額
流動資産	119,235	111,879	△ 7,355
固定資産	33,571	32,410	△ 1,160
資産合計	152,806	144,290	△ 8,516
流動負債	45,006	35,468	△ 9,537
固定負債	3,913	4,059	146
負債合計	48,919	39,527	△ 9,391
純資産	103,887	104,762	875
負債・純資産合計	152,806	144,290	△ 8,516

- 総資産は85億円減少し、1,442億円となっています。

7) 設備投資と研究開発費

(単位: 百万円)

	前第2四半期 累計(2016/9)	当第2四半期 累計(2017/9)	2017/3 前期実績	2018/3予想	
				期初	11月6日修正
設備投資額	4,758	1,003	7,710	5,700	5,200
減価償却費	1,548	1,571	3,422	3,900	3,600
研究開発費	2,958	3,772	6,466	7,300	7,300

●設備投資の上期実績

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品

●2018/3期計画における主な案件

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、本社(西落合事業所)改修工事8億円

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

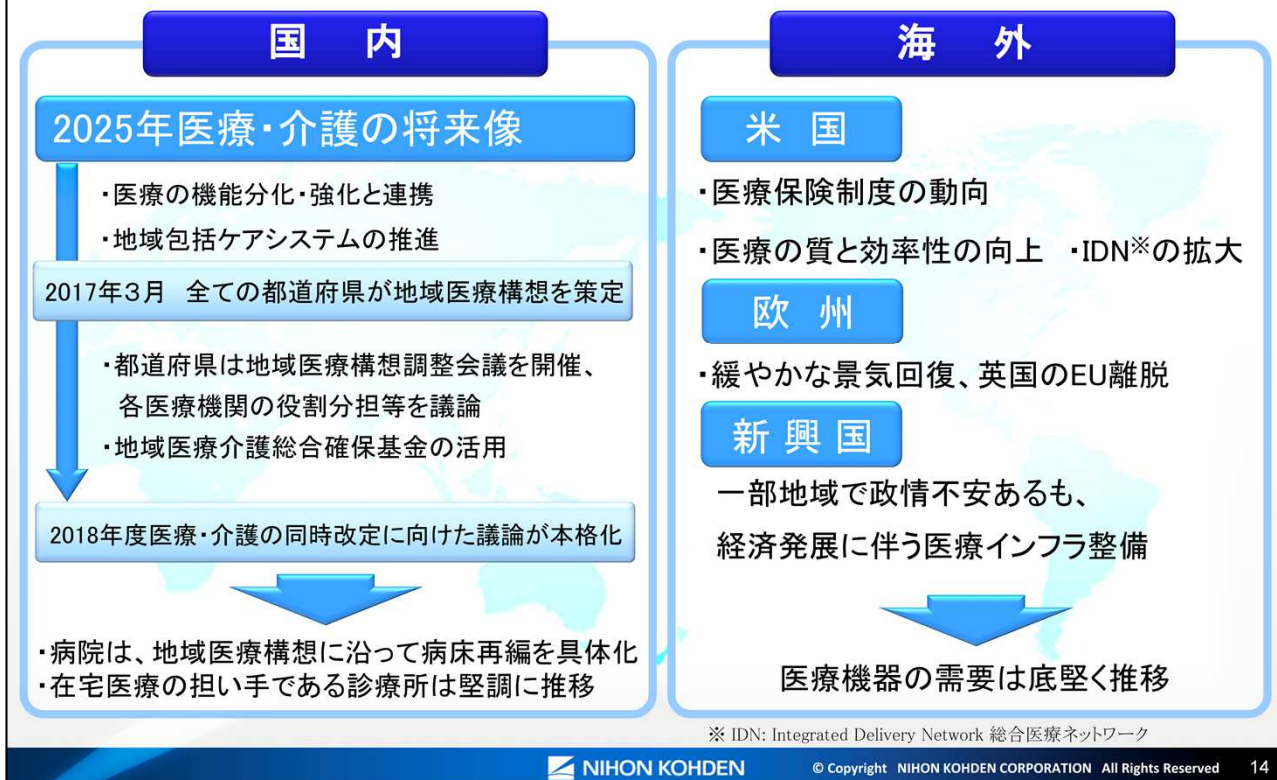
12

- 設備投資は、前期比37億円減の10億円となりました。所沢の総合技術開発センタといった大型投資が前期で完了したため、大きく減少しています。
- 減価償却費は前期並みの15億円、研究開発費は8億円増の37億円となりました。生体情報モニタなどの新製品開発が順調に進んでおり、若干前倒しとなっています。
- 通期につきましては、計画を一部見直し、設備投資は52億円、減価償却費は36億円に変更しました。
- 研究開発費は、期初の想定どおり、73億円の見通しです。

2

通期の業績見通し

1) 経営環境



- 国内では、2025年の医療と介護の将来像に向けて、医療制度改革が進められています。
- 2017年3月までに、全ての都道府県が地域医療構想をまとめており、各医療機関の役割分担が検討されています。また、2018年度の診療報酬改定に向けた議論が本格化しています。
- 病院では、地域医療構想に沿った病床再編が進む一方、診療所市場は堅調に推移すると考えています。
- 海外につきましては、米国では、医療保険制度の動向が注視されており、医療の質と効率性の向上や、IDN拡大の動きがあります。
- 欧州では、緩やかに景気が回復しています。
- 新興国では、一部地域では政情不安がありますが、経済発展に伴う医療インフラ整備は進むと予想されます。
- 海外の医療機器の需要は総じて底堅く推移すると考えています。

2) 下期の取り組み

国内事業

市場別営業の推進

大学、官公立
病院市場

臨床情報システムの機能強化
による手術室・ICU商談の確実
な獲得

私立病院、
診療所市場

診療所市場向け新商品を投入、
ソリューション提案を強化

海外事業

米国

大口モニタ商談対応のため、
本社支援体制を強化

新興国

東南アジア・中近東

販売代理店網の見直し

東アフリカ地域

販売強化のため、
ケニア支店を開設

収益改善策

自社製品の売上拡大

・生体情報モニタ、ITソリューションを中心とする新商品の投入
・SpO₂/CO₂センサ、iNIBPのパラメータ商品の販促に注力

組織的な生産性の向上

・供給リードタイム短縮による在庫の圧縮、短納期対応
・国内販売子会社統合による業務効率の改善

経費コントロールの強化

設備投資・人員計画の見直し、各社・各部門での経費管理を徹底

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

15

- 下期はご覧の取り組みを推進します。
- 国内では、市場別営業を推進してまいります。下期に予算執行が集中する大学、官公立病院市場では、臨床情報システムの機能強化により、手術室・ICU商談の確実な獲得を目指します。また、私立病院、診療所市場では、新商品の投入により、ソリューション提案を強化します。
- 海外では、米国での大口モニタ商談に対応するため、本社からの支援体制を強化します。新興国では、販売代理店網を見直すとともに、ケニア支店を開設します。
- 収益改善に向けては、新商品や消耗品など、自社製品の売上拡大に引き続き注力します。在庫の圧縮や業務効率の改善により、組織的な生産性の向上に取り組めます。設備投資や人員計画を見直し、全社での経費管理を徹底します。

3) 通期の業績見通し

(単位:百万円)

	前期実績 2017/3	当期予想 2018/3	増減率 (%)
売上高	166,285	175,000	5.2
国内売上高	124,764	128,000	2.6
海外売上高	41,520	47,000	13.2
営業利益	13,585	15,000	10.4
経常利益	14,053	15,000	6.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,149	10,200	11.5

海外売上高比率 25.0% 26.9%

	平均レート	(期初の想定)
1ドル	109.2円	110円
1ユーロ	119.3円	115円

(下期)
110円
115円

← 為替影響除く: +14%

【地域別海外売上高】

	前期実績 2017/3	当期予想 2018/3	増減率 (%)
米州	18,953	22,500	18.7
欧州	6,988	7,500	7.3
アジア州	12,639	14,400	13.9
その他	2,938	2,600	△ 11.5
海外計	41,520	47,000	13.2

- 通期の業績見通しですが、下期の取り組みをふまえ、期初の計画どおりとしています。
- 売上高は5.2%増の1,750億円、国内売上高は2.6%増の1,280億円、海外売上高は13.2%増の470億円の見通しです。
- 下期は、新商品の投入や海外事業の拡大、生体情報モニタなどの販売増加により、粗利率は上期から改善する見通しです。販管費につきましても、人件費・経費の伸びの抑制に努めるため、営業利益は、10.4%増の150億円で変更ございません。経常利益、純利益につきましても、ご覧のとおりです。
- 下期の為替につきましては、期初の想定どおり、ドルは110円、ユーロは115円と見えています。

[参考]商品群別売上高見通し

(単位:百万円)

	前期実績 2017/3	当期予想		増減率(%)
		期初	11月6日修正	
生体計測機器	37,658	39,800	39,500	4.9
生体情報モニタ	56,117	59,100	61,400	9.4
治療機器	29,728	31,200	31,200	5.0
その他	42,781	44,900	42,900	0.3
売上高合計	166,285	175,000	175,000	5.2
(ご参考)				
消耗品・保守サービス	71,180	75,100	75,700	6.4

- 商品群別の売上高見通しについては、上期業績をふまえ修正しました。
- 生体情報モニタを中心にシェア拡大を図るとともに、安定収益につながる消耗品・保守サービス事業の取り組みを、国内外で強化します。

3

当社の経営戦略

TRANSFORM 2020 の基本方針

高収益体質への変革



3つの顧客価値の創造・提供

革新的技術
Innovation



品質
Quality



臨床的価値
Clinical Value



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

19

- 3カ年中期経営計画「TRANSFORM 2020」では、高収益体質への変革を目指しています。
- 当社のコア技術である「ヒューマン・マシン・インターフェース」をさらに強化し、医療現場の課題解決につながる3つの顧客価値を創造、提供し続けることで、収益力の向上を図ります。

TRANSFORM 2020 の基本方針

1

高い顧客価値の創造

当社の
強み

センサ技術、データ解析
技術などの独自技術

顧客価値の高い
自社製品の
開発・販売



・競争優位性の高い
センサ等消耗品



・医療の効率化、患者安全
に貢献するサービス

消耗品・保守サービス
売上高比率目標45%

専門性の高い
グローバル
販売・サービス
体制の構築

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

20

- 基本方針の1つ目は「高い顧客価値の創造」です。
- 当社の強みである独自技術を最大限に活用し、顧客価値の高い自社製品の開発・販売に注力します。
- 消耗品の競争優位性を高めるとともに、医療の効率化と患者安全に貢献するサービスを拡充し、消耗品・保守サービスの売上高比率45%を目指します。
- 専門性の高いグローバルな販売・サービス体制を構築することで、顧客満足度の向上を図ります。

TRANSFORM 2020 の基本方針

2

組織的な生産性の向上

富岡生産センタ

- 生産改革を推進



- グループ最適なグローバル・サプライチェーンの構築

- 生産性の向上
- 世界各国へのタイムリーな製品供給

総合技術開発センタ

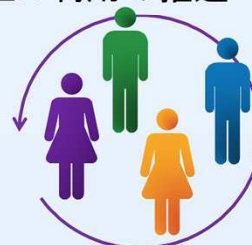
- 充実した研究開発・試験環境の活用
- プロセス管理、品質管理、生産技術による支援体制の強化



開発効率の向上

グループ全体

- 業務プロセス改革とIT利用の推進



社員一人ひとりの生産性の向上

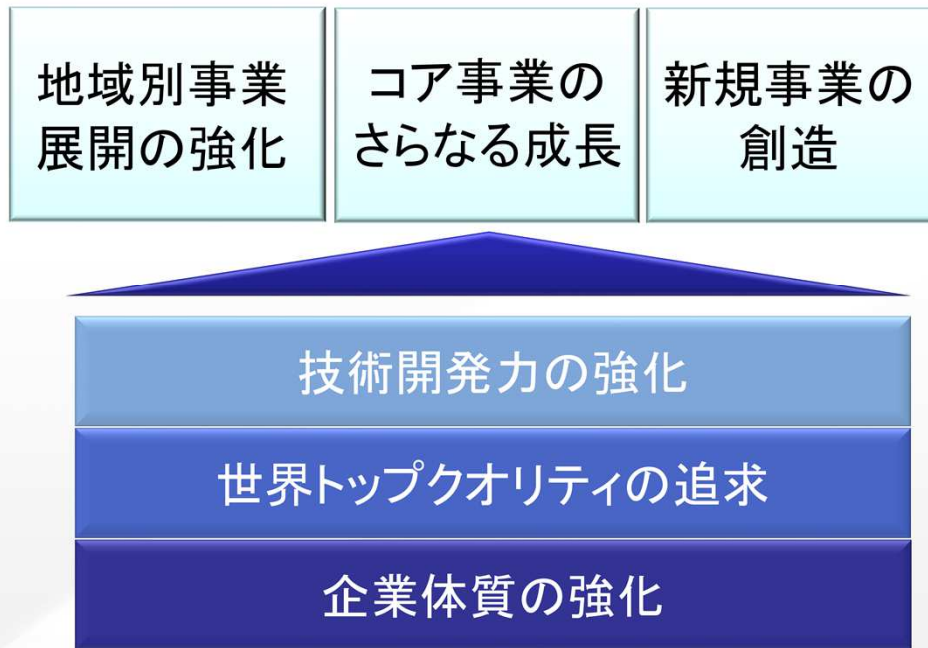
NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

21

- 基本方針の2つ目は「組織的な生産性の向上」です。
- 富岡生産センタを中心に生産改革を推進するとともに、グループ最適なグローバル・サプライチェーンを構築し、生産性の向上とタイムリーな製品供給を目指します。
- 総合技術開発センタでは、充実した研究開発・試験環境を最大限に活用するとともに、プロセス管理、品質管理、生産技術による支援体制を強化し、開発効率の向上を図ります。
- グループ全体では、業務プロセス改革とIT利用を推進し、社員一人ひとりの生産性向上を目指します。

6つの重要課題



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

22

- これらの基本方針のもと、ご覧の6つの重要課題に取り組めます。
- この中から、「地域別事業展開の強化」および「コア事業のさらなる成長」についてご説明します。

地域別事業展開の強化

日本

高齢社会の医療ニーズに応える新たな成長基盤の構築

✓ 病院経営の改善に貢献するソリューションの提供

✓ 地域医療連携に対応した商品ポートフォリオの拡充



✓ 販売・サービス体制の強化・再編

病院営業

GP※営業

※GP: General Practitioner
総合診療医

販売子会社制 ▶ 支社・支店制への移行

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved 23

- 日本では、高齢社会の医療ニーズに応える新たな成長基盤の構築に取り組めます。
- 当社が強みとする急性期病院市場では、更新需要が見込まれるシステム商談に注力し、病院経営の改善に貢献するソリューションを提供します。
- 診療所市場では、地域医療連携に対応したITソリューションやホルター心電計を発売し、事業展開を強化します。
- 2017年4月の支社支店制への移行により、病院のグループ化や全国的な共同購入などの市場変化に機動的に対応します。

アメリカ

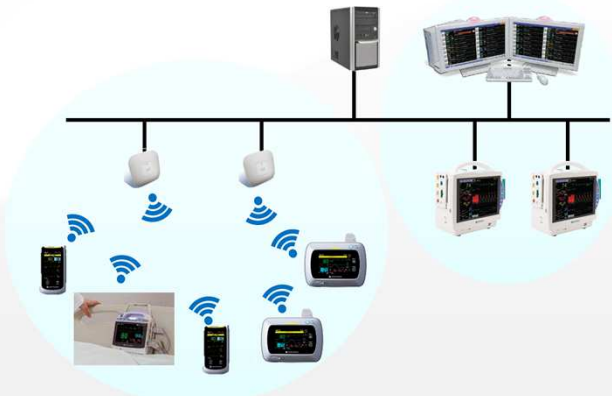
世界最大・最先端のアメリカでの事業基盤の強化

- ✓ 医療の質と効率の向上に貢献
- ✓ 現地開発体制の強化
- するソリューションの提供

NKUSラボ



- ✓ ワイヤレス技術を活用した大規模ネットワークシステムへの対応



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

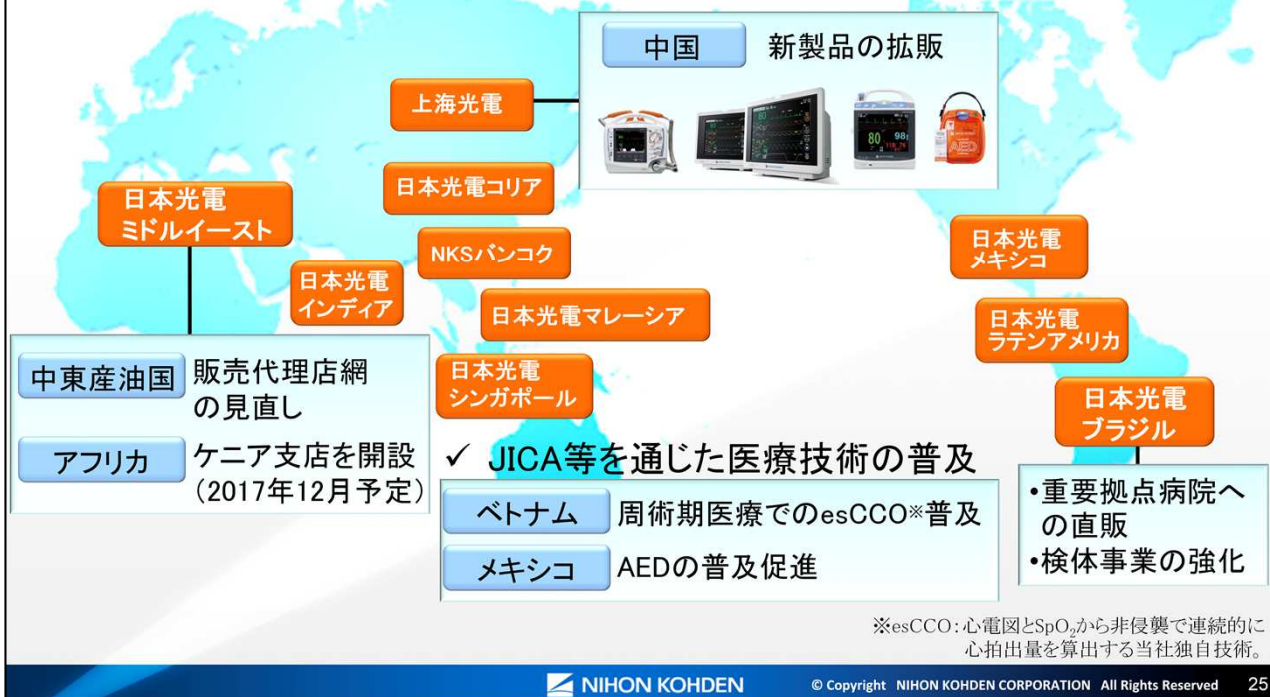
24

- アメリカでは、引き続き事業基盤の強化に取り組めます。
- 「生体情報モニタ」「脳神経」「救命救急」、3事業の連携を図るとともに、商品群の拡充や戦略的M&Aにより、新市場への進出を目指します。
- 生体情報モニタリング事業では、シェア12%を目標としていますが、この度、全米トップの小児病院でモニタ商談を受注しました。当社のモニタシステムを評価いただき、今後の波及効果が期待されます。
- 現在、NKUSラボの開発体制を強化しており、無線LAN環境で利用できるモニタ機種を拡充するとともに、大規模ネットワークシステムへの対応を強化しています。
- これらの取り組みにより、引き続き、商談の機会を増やし、本社からの支援体制を強化することで、確実な受注獲得に努めます。

新興国

新興国市場の医療ニーズに応える戦略的事業展開

✓ アジア、中南米、アフリカ市場における販売・サービス体制の増強



- 新興国市場では、各地域において、現地に密着した販売・サービス体制の増強を図ります。
- 中国では、新たにCFDAの承認を取得した、生体情報モニタや治療機器の拡販に注力します。
- サウジアラビアなどの中東産油国では、販売代理店網の見直しにより、売上の回復を目指します。
- 東アフリカ地域での販売を強化するため、ケニア支店を開設します。
- 南米のブラジルでは、重要拠点病院への直販に加え、検体事業の強化に努めます。
- 新興国での医療技術の普及に向け、ベトナムでのesCCO、メキシコでのAED普及促進に注力します。

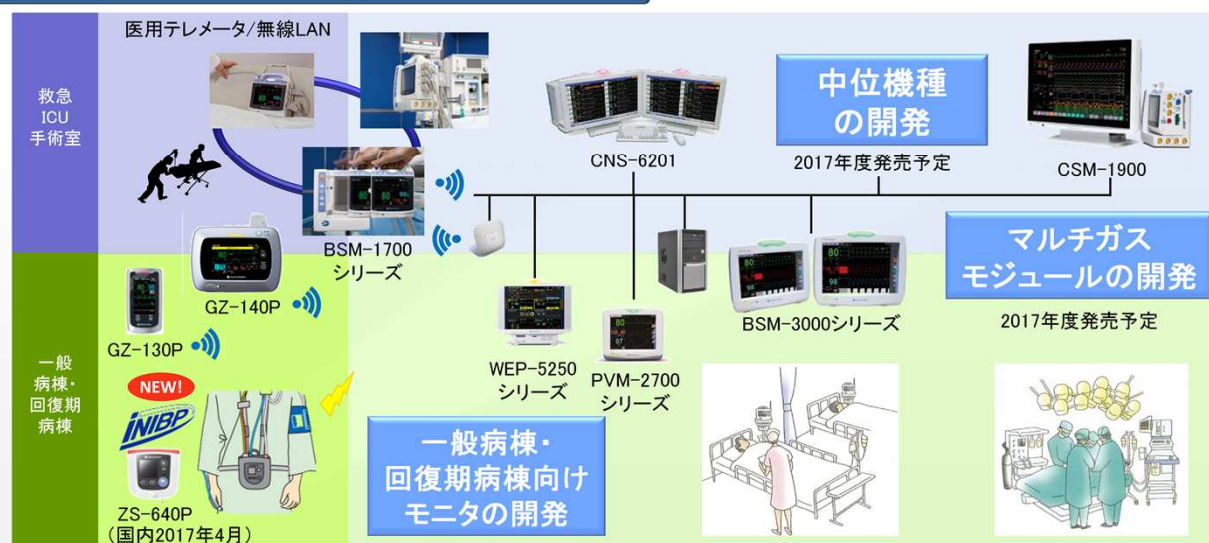
コア事業のさらなる成長



- 当社は、センサ技術を中心に、ご覧の事業領域に展開しています。
- 「生体情報モニタリング事業」「ITソリューション事業」「消耗品・サービス事業」について、ご説明します。

✓ 医療の質と効率、患者安全の向上に貢献するモニタリングソリューションの提供

製品ラインアップの拡充・ネットワーク対応



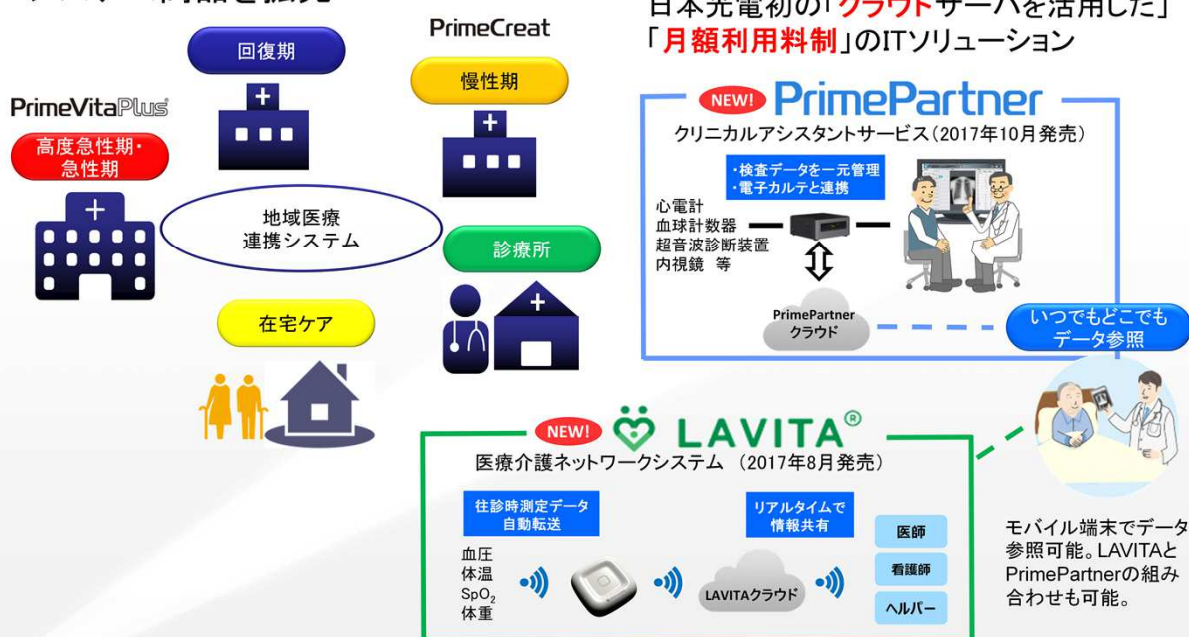
NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

27

- 生体情報モニタリング事業では、医療の質と効率、患者安全の向上に貢献するため、製品ラインアップの拡充を図るとともに、ネットワーク対応を強化します。
- 当社独自の血圧測定方式であるiNIBPを搭載した送信機は、非常に好評を得ており、他社との差別化につながっています。
- 当期の新商品としては、ベッドサイドモニタの中位機種やマルチガスモジュールの発売を予定しています。また、一般病棟・回復期病棟向けのモニタの開発を進めています。
- 引き続き、当社独自のソリューションを提供することで、グローバルな事業展開を加速します。

- ✓ クラウド技術を活用し、地域医療連携の基盤となる
システム商品を拡充



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

28

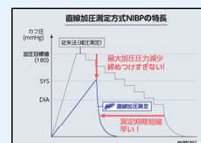
- ITソリューション事業では、地域医療連携の基盤となるシステム商品を拡充します。
- この度、診療所市場向けの新たなサービスとして、PrimePartnerとLAVITAを相次いで発売しました。いずれも、当社初のクラウドサーバを活用した、月額制のITソリューションです。
- PrimePartnerは、診療所で測定した様々な検査データを一元管理し、いつでもどこでもデータ参照できるサービスです。
- LAVITAは、往診時に測定したデータを医療関係者だけでなく、介護関係者ともリアルタイムで情報共有できるサービスです。
- 2つのサービスは組み合わせて利用することもでき、訪問診療、在宅医療でのIT活用に貢献するため、積極的に販売展開します。

✓ 独自センサ技術のグローバル市場への普及を促進

CO₂アダプタの拡充メインストリーム式
CO₂センサCO₂測定用
酸素マスク上部内視鏡時
CO₂モニタリング用
バイトブロック

NEW!

OEM事業の推進

トーイツ(株)とNIBPモジュールの
OEM供給契約締結

✓ 消耗品の生産拡大、コストダウン

【実現目標】 2017年度

2018年度

2019年度～

AED用使い捨てパッド

富岡第二工場
での増産、
自動化SpO₂センサ富岡第二工場での
自動化生産とコストダウン

NIBPカフ



生産の自動化

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

29

- 消耗品・サービス事業では、引き続き、当社独自のセンサ技術をグローバルで普及に努めます。
- 当社のCO₂センサは、世界最小・最軽量を実現していますが、新たに、上部内視鏡の際にCO₂を測定するためのバイトブロックを発売しました。内視鏡検査で鎮静薬を使用した際の呼吸状態をモニタリングに活用します。
- OEM事業では、トーイツ株式会社様と契約を締結し、同社の分娩監視装置にiNIBPを搭載いただくことになりました。
- 消耗品の生産拡大、コストダウンに向けては、富岡第二工場で、AED用使い捨てパッドの自動化生産を開始し、増産体制を整えました。さらに、SpO₂センサ、NIBPカフの自動化生産にも取り組みます。

経営目標値(2020年3月期)

売上高	1,900億円	
国内売上高	1,350億円	
海外売上高	550億円	地域別海外売上高
営業利益 (営業利益率)	200億円 (10.5%)	米州 273億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	137億円	欧州 82億円
ROE	12.0%	アジア州 165億円
		その他 30億円

想定レート: 1USD=110円、1EUR=115円

- 「TRANSFORM 2020」の経営目標値につきましては、2020年3月期に、売上高1,900億円、国内売上高1,350億円、海外売上高550億円を目指しています。海外の地域別は、ご覧のとおりです。
- 営業利益は200億円、純利益は137億円、ROEは12%を目指しています。

利益配分の基本方針

成長投資

将来の企業成長に必要な投資を継続

研究開発

設備投資

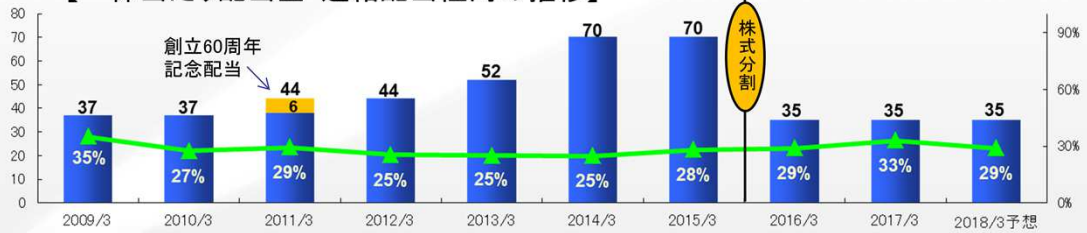
M&A、提携

人財育成

株主還元

- ✓ 長期にわたって安定的な配当を継続
- ✓ **連結配当性向30%以上を目標**
- ✓ 配当を重視し、自己株式の取得は機動的に検討

(円)【一株当たり配当金・連結配当性向の推移】



注) 2015年4月1日を効力発生日として株式1株につき2株の株式分割を実施
2015年3月期までの数値は、株式分割前の実際の配当金の額を記載

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

31

- 利益の配分につきましては、研究開発や設備投資、M&Aや提携、人財育成など、将来の成長に必要な内部留保の確保に配慮しながら、長期にわたって、安定的な配当を継続することを基本方針としています。配当性向は30%以上を目標としています。
- 株主還元は、配当を重視しており、自己株式の取得につきましては、機動的に検討します。
- 当期の年間配当金は35円の予想で、配当性向は29%となる見込みです。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】経営戦略部

【連絡先】TEL03-5996-8003